Reverse side（仮）

神城恭夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｒｅｖｅｒｓｅ　ｓｉｄｅ（仮）

【Ｎコード】
Ｎ３２１１Ｚ

【作者名】
神城恭夜

【あらすじ】
平凡な高校生がいろいろなもののために奮闘する
たぶんそんな物語です
異世界へ行きます
ファンタジーになる予定です

世界が変わる前の日常（前書き）

全くの初心者です

文法的なこととかよくわからないので

読みにくいと思いますがご了承ください

世界が変わる前の日常

何にもない真っ白な世界。
そこには、少女が座っていた。
美しい、その言葉が彼女そのものを表しているように思える。
悲しい顔をしている。
まるで、誰かを待っているかのように。
『サイト』
彼女は、とある少年の名を呼んだ。

▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽

「兄様起きて下さい……兄様っ」
肩を揺すられ眠っていた意識が覚醒する。
昨夜、夜更かししたせいか、目覚めが悪い。なんだか頭がぼんやりする。今、白い所にいて名前が呼ばれたような……。
「起きて下さい。今日は高校の入学式です」
妹――恋華は腰まである黒髪をなびかせ、俺の布団をはがそうと引っ張ってくる。
「わかってる。あと五分だけ」
そう言い俺は布団を取られまいと手に力を込めた。
が、恋華はよりいっそう強く引っ張ってくる。
「駄目です。今日は許しません。起きてくれないなら学校で兄様が私の下着の匂いを嗅いで変なことをしていたということをばらします」
「そんなこと一回もしたことないからな。そんなことしたら社会的に死ぬからな」

思わず、声を張り上げてしまった。
布団も取られてしまい完全に目が覚めてしまったので仕方なく俺は着替えようとするが……。
恋華が俺の方をじっと見ている。
「お前はいつまでここにいるんだ。起きただろ、早く部屋から出てけよ」
「え～。せっかく兄様の体を堪能できると思ったのに」
と、何やら訳の分からないことを残念な顔をして呟いて部屋を出ていった。
全く何を言ってるんだあいつは。
兄として恋華が友達に変な話をしていないか心配だ。
そんなことを考えるときりがないので、俺は手早く着替えを済ませ、居間にある古風な木製のテーブルに向かった。
テーブルには朝食にもかかわらず豪華な食事が並んでいる。
これらは全部恋華が作ったものだ。
両親はというと、夢を追いかけるとかいって海外を転々としてほとんど家に帰って来ない。まぁお金を送ってくれるだけ良い親なのか。
そういうわけもあり今は家の家事全般を恋華がやってくれている。
「兄様、今日の昼のお弁当、もう作ってありますから」
恋華は朝の作業を全て終えたらしく、ピンクのエプロンをつけたまま、俺の向かいの席に座った。
「ああ、ありがとう」
弁当を作ってくれた恋華に礼を言いテレビをつける。
テレビでは朝のニュースをやっているようで、画面の中央にスーツを着た女性が、白い長机を前に座っていた。
『また失踪事件です。昨夜未明、高校生数名の行方が分からなくなっています。この事件に関して警察は連日の事件と関係があるとして捜査を続けており――』
謎の失踪事件。
何人もの人が行方不明になっていてその事件は神隠しともいわれて

いる。一週間前に最初の失踪者が現れてから立て続けに起こっている。しかも、その失踪者のほとんどが高校生とされている。つまり子供だけってことだ。もちろん、何が目的で起こしているのかもわかってはいない。
「またかよ」
どうせ、俺には関係のないことだ。そう思い出来立てのご飯を頬張る。
「兄様も気を付けてくださいね。最近はこの辺でも行方不明になる人がでていますから」
「わかってるよ。お前も気を付けろよ」
それを聞き恋華の顔が急に赤くなった。何でだ、熱でもあるのか？
「……」
「兄様が、私を心配してくれるなんて！　仕方ありません。今夜は、一緒に寝ましょう」
この話の流れから、何でそうなるんだ。
俺は朝食を食べ終え、食べ終わった食器を片付けた。
「じゃ、行ってきます」
恋華の言葉をスルーし、学校指定のスクールバッグを持ち、俺は家の扉を開いた。
「兄様、今のは無言の了承とみて――『バタンッ』――
後ろの方から何か言われる前に扉を閉めた。
全く、相変わらず何を言ってるんだ。
近所の住人に聞かれていたら、俺が変態になってしまうところだ。
こんな、当たり前になってしまったやりとりをして、俺は新しい高校生活に向かって歩き始めた。

こうして俺の日常は、ずっと廻っているはずだった。
そう、あのときまでは。

世界が変わる前の日常（後書き）

読んだ感想や指摘等のアドバイスをよろしくお願いします

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3211z/

Reverse side（仮）

2011年12月11日02時46分発行